

【委員会報告】

2021年 就職懇談会 報告

企画委員

西田高大(短大13回生)

新型コロナウイルス感染者が急増し、緊急事態宣言も発令されたため、今年の就職懇談会の開催についてオンライン開催も含めて協議を重ねました。春に行われる日本放射線技術学会総会学術大会の参加を兼ねた研修旅行は中止となり、さらに6月に行われる臨床実習も延期となったことで、メリハリがなく就職活動や国家試験に対する取り組み方など実感が湧いてこないという4年生の意見を取り入れ、学生・講師の感染予防を徹底し、対面方式で5月22日(土)に就職懇談会を開催しました。

当日は西田高大の司会進行のもと、まず出石弘伸企画委員長(57回生)に就職懇談会の趣旨、続いて玉田彰会長(53回生)より学友会の歴史や活動についての説明をしていただきました。

今年度の先輩からの一言は、4名に講師を引き受けていただきました。

トップバッターの泉本涼介氏(京都桂病院:大学8回生)からは、学生に年齢が近いことから国家試験についてご自身の学内模試の成績を披露し、早い時期から色々な勉強方法を試す方がいいことや、就職試験においても面接、小論文、国家試験対策を早期に取り組むことが重要であるとアドバイスを送っていました。その他、同級生が就職した施設のプラス面やマイナス面などのアンケートをとり、様々な施設の特徴を講演していただきました。

八木允人氏(御池クリニック:短大17回生)からは、予防医学はサービス業の一面があり、身だしなみ、接遇が重要である。技師としての技術(基礎知識・病気を見抜く力)が健診には必要となるとアドバイスを送っていました。「技師にとっては何百件中の1検査でも受診者には1年に1回の重要な検査で慣れはよくない」と強く伝えていました。

竹井美佐希氏(みどりヶ丘病院:短大13回生)からは、4人の子供をもつお母さんとして、女性技師のライフスタイルや産休・育休を詳しく、加えてご自身の新人教育の経験から「新人として覚えていて欲しいこと」と題し就職後の心構えも講演していただきました。

風川かおり氏(シーメンスヘルスケア株式会社:短大11回生)からは、現在ご担当のマンモグラフィの製品について紹介して頂き、この装置には

お客様にどのような性能があるのか、どのあたりが優れているのか紹介購入していただくのが仕事であると、企業での仕事を分かりやすく説明していただきました。また、企業に転職されてからの苦労、2人の子供のお母さんとして子育てしながら勤務していることなど、企業勤務として様々なことを講演していただきました。

休憩の後、第2部の前半は「採用する側からのアドバイス」を技師長として勤務されている錦 成郎副会長

(54回生)にご登壇いただきました。学生がどのようにしたら好印象を持たれるか、逆に良くない印象を与えてしまうかなど説明され、天理よろづ相談所病院での採用試験の紹介、面接のポイント、卒後教育や技師法が改正され今後の技師業務の拡大が行われるなど様々な内容の講演をしていただきました。

第2部後半のQ&Aでは西田から新型コロナウイルスに対する公立病院の役割として、以前から国の施策で公立・公的病院の統合・再編が進められているなか、公的病院の役割や



特徴などの講演を行いました。



例年開催されるBBQは、新型コロナウイルス感染予防のため中止となったため、気軽な個別相談が出来ません。そこで、今回新たな試みとして、ご参加いただいた理事、講師、相談員に、管理職・公的医療機関勤務・民間(法人)病院勤務・大学病院勤務・企業、予防医学勤務の5グループにわかれていただき、それぞれの進路を希望する学生の相談に答えていただきました。



今年度の就職懇談会は、例年になく質問もあり、かなりやる気に満ち溢れておりました。皆様、求人がありましたらぜひ大学に声をかけてあげてくださいますようお願いいたします。

最後に、このような状況、またギリギリまで開催できるかわからなかったなか、ご出席いただきました講師・相談員の皆さま、お世話いただいた大学の皆さま、学友会理事の皆様に感謝申し上げます。

参加いただいた理事・相談員

西谷源展氏(44 回生 副会長)、池 和秀氏(65 回生 京都桂病院)、黒田大悟氏(短大 3 回生 天理よろづ相談所病院)、辻居賢一氏(短大 15 回生 神戸赤十字病院)、芝本昂平氏(大学 3 回生 京都桂病院)、吉田隆人氏(大学 6 回生 神戸大学医学部附属病院)、岩本大成氏(大学 6 回生 高槻病院)、伊勢聖大氏(大学 9 回生 神戸市民病院機構)、大沼 稜氏(大学 10 回生 京都桂病院)、近藤華華氏(大学 10 回生 滋賀県立総合病院)、

以上